

MEIKO REPORT

第48期 株主通信

(2022年4月1日から2023年3月31日)

証券コード：6787

株式会社 メイコー

財務ハイライト

売上高

167,276 百万円

営業利益

9,575 百万円

親会社株主に帰属する当期純利益

8,847 百万円

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前期末 2022年3月31日現在	当期末 2023年3月31日現在
資産の部		
流動資産	78,367	91,905
固定資産	89,961	110,489
有形固定資産	82,562	95,537
無形固定資産	954	6,999
投資その他の資産	6,444	7,951
資産合計	168,328	202,394
負債の部		
流動負債	73,027	73,672
固定負債	36,615	44,246
負債合計	109,642	117,919
純資産の部		
株主資本	45,464	59,981
資本金	12,888	12,888
資本剰余金	6,700	13,700
利益剰余金	28,061	35,568
自己株式	△2,186	△2,176
その他の包括利益累計額	13,024	17,339
その他有価証券評価差額金	4	13
繰延ヘッジ損益	△41	54
為替換算調整勘定	13,173	17,425
退職給付に係る調整累計額	△112	△154
非支配株主持分	197	7,154
純資産合計	58,686	84,475
負債純資産合計	168,328	202,394

連結損益計算書

(単位：百万円)

	前期(累計) 2021年4月1日～ 2022年3月31日	当期(累計) 2022年4月1日～ 2023年3月31日
売上高	151,275	167,276
売上原価	123,880	141,260
売上総利益	27,394	26,015
販売費及び一般管理費	14,139	16,440
営業利益	13,255	9,575
営業外収益	2,090	3,268
営業外費用	1,050	1,631
経常利益	14,294	11,212
特別利益	12	42
特別損失	1,694	583
税金等調整前当期純利益	12,612	10,672
法人税等	1,175	1,887
当期純利益	11,436	8,784
非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△14	△62
親会社株主に帰属する当期純利益	11,451	8,847

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前期(累計) 2021年4月1日～ 2022年3月31日	当期(累計) 2022年4月1日～ 2023年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,975	15,714
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,785	△29,042
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,730	19,961
現金及び現金同等物に係る換算差額	869	250
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,671	6,884
現金及び現金同等物の期首残高	12,121	10,450
現金及び現金同等物の期末残高	10,450	17,334

財務のポイント

●連結損益計算書

車載向け基板の半導体等の不足による自動車の減産継続の影響から本格的回復には至りませんでした。スマートフォン向け基板は、需要低迷に加え、中国の基板メーカーとの競争が激化したことから、大きく当初の予想を下回る結果となりました。全体としては、メイコーエンベデッドプロダクツが連結対象となったこと、および通期では円安が寄与したため前期比増収、稼働損の発生等により前期比減益となりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は、167,276百万円(前期比10.6%増)と前期と比べ16,001百万円の増収となりました。損益面では、営業利益が9,575百万円(前期比27.8%減)、経常利益が11,212百万円(前期比21.6%減)、親会社株主に帰属する当期純利益が8,847百万円(前期比22.7%減)となりました。

●連結貸借対照表

総資産は202,394百万円となり、前連結会計年度末に比べ34,065百万円増加しました。これは流動資産において、現金及び預金の6,884百万円増加、電子記録債権の1,929百万円増加、棚卸資産の2,861百万円増加、固定資産において、有形固定資産の12,975百万円増加、のれんの5,999百万円増加が主な要因です。

純資産は、84,475百万円となり、前連結会計年度末に比べ25,788百万円増加しました。資本剰余金の7,000百万円増加、利益剰余金の7,506百万円増加、為替換算調整勘定の4,251百万円増加、非支配株主持分の6,956百万円増加が主な要因です。



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、
厚く御礼申し上げます。
2023年3月期の業績についてご報告申し上げます。

代表取締役社長 **名屋 佑一郎**

連結業績 2023年3月期実績／2024年3月期予想

(単位：億円)

	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	前期比 増減率	2024年3月期 予想	前期比 増減率
売上高	1,513	1,673	10.6%	1,650	-1.4%
営業利益	133 8.8%	96 5.7%	-27.8%	90 5.5%	-6.0%
経常利益	143 9.5%	112 6.7%	-21.6%	80 4.8%	-28.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	115 7.6%	88 5.3%	-22.7%	62 3.8%	-29.9%
期中平均為替レート (JPY/USD)	113	136		130	

商品別業績 2023年3月期実績／2024年3月期予想

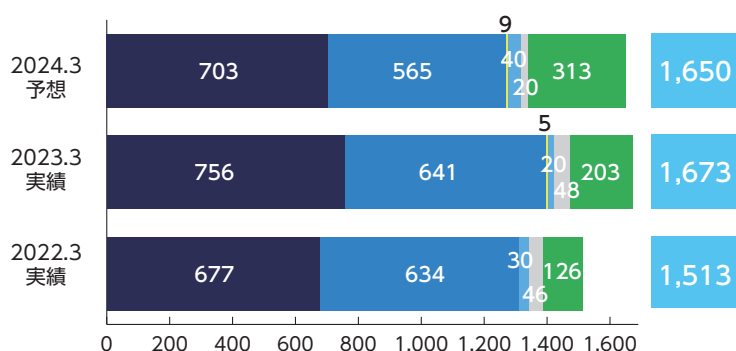
(単位：億円)

	2022年3月期実績		2023年3月期実績		2024年3月期予想	
	売上	営業利益 営業利益率	売上高	営業利益 営業利益率	売上高	営業利益 営業利益率
車載	732	63 8.6%	845	60 7.1%	815	46 5.6%
スマートフォン タブレット	332	39 11.7%	271	11 4.1%	211	14 6.6%
半導体パッケージ		-	5	0 0.0%	9	-7 -77.8%
SSD IoTモジュール	68	11 16.2%	100	10 10.0%	89	13 14.6%
AI家電・アミューズメント 産機他商品	255	17 6.7%	249	16 6.4%	213	14 6.6%
EMS 電子機器開発製造	126	3 2.4%	203	-1 -0.5%	313	10 3.2%
合計	1,513	133 8.8%	1,673	96 5.7%	1,650	90 5.5%

仕様別売上高シェア

(単位：億円)

■ 貫通多層基板 ■ ビルドアップ基板 ■ 半導体パッケージ基板 ■ リジットフレキ/フレキ基板 ■ 放熱/大電流/他基板 ■ EMS/電子機器開発製造



2023年3月期業績について

当連結会計年度における電子部品業界は、世界的にインフレや金利上昇が進行し経済や景気が減速する中、中国の新型コロナウイルス感染症による経済・生産活動の落ち込み、ウクライナ情勢を背景としたエネルギー価格の高騰等の影響を受けました。また、部品不足やグローバルなサプライチェーンの混乱が年度を通して継続しました。

このような環境の下、当社グループでは、車載向け基板は半導体等の不足による自動車の減産が続き、受注面でもこの影響を受け本格的回復には至りませんでした。販売面では円安の寄与もあり前期比増収となりました。スマートフォン向け基板は、受注面ではスマートフォンの需要低迷に加え、中国メーカーのスマートフォンにおける中国の基板メーカーとの競争が激化したことからさらに減少が顕著となりました。販売面は年度後半のスマートフォンの生産調整の影響を受け、大きく当初の予想を下回る結果となりました。それ以外の商品の販売は概ね横這いで推移しました。全体としては、メイコーエンベデッドプロダクツ株式会社が連結対象となったこと、および通期では円安が寄与したため前期比増収、損益面では全社的にコスト削減に努めたものの稼働損の発生等により前期比減益となりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は、167,276百万円(前期比10.6%増)と前期と比べ16,001百万円の増収となりました。損益面では、営業利益が9,575百万円(前期比27.8%減)、経常利益が11,212百万円(前期比21.6%減)、親会社株主に帰属する当期純利益が8,847百万円(前期比22.7%減)となりました。

2024年3月期の見通しについて

当社グループが属する電子部品業界は、自動車に代表される自動運転やこの制御に用いる通信機器の高機能化など様々な分野で高性能な電子部品需要が拡大する見通しとなっております。

次期当社グループの業績見通しは、販売面においては車載向け基板が引き続き全体を牽引することを見込んでおりますが、スマートフォンの需要低迷と中国メーカー製のスマートフォンの受注競争激化の影響を受け、高機能機種に注力していくものの、販売は減少を余儀なくされる見込みとなっております。EMS事業はメイコーエンベデッドプロダクツ株式会社が通期連結対象となり、販売の拡大を見込んでおります。今後、先端車載分野や半導体パッケージ基板、通信モジュール基板の需要が高まることから、天童工場の竣工および、石巻第2工場とベトナム第3工場の本格的な生産に向けた準備を進めています。新工場の早期収益化に取り組み、今後の当社事業の柱として育成するべく生産体制の強化を図ってまいります。損益面では引き続き、工場の自動化・省人化、歩留まり改善など生産性

の改善を推進しさらなる収益性の強化を図ってまいります。
 以上により、業績の見通しを以下のとおりいたしました。

売上高	165,000百万円
営業利益	9,000百万円
経常利益	8,000百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	6,200百万円

中期経営計画の見直しについて

2022年5月に公表した中期経営計画は、初年度となる2023年3月期において、自動車の減産やスマートフォンの需要低迷を受け計画と大きな乖離が生じ、2024年3月期の予想においても需要面が弱含んでいることから中期経営計画の見直しを行いました。

販売は、直近の需要低迷を受け修正を行いました。2026年3月期から2027年3月期は計画を上回る見通しとなっております。商品別内訳では、車載向け基板はEV向けや自動運転向け基板が急速に需要拡大する見通しとなっております。

こうした需要に対応するため、2025年3月期に天童工場の本格生産開始などの準備をすすめ、最終年度となる2027年3月では当初計画比230億円(20.9%)増加する見通しとなっております。最終年度となる2027年3月では当初計画比230億円(20.9%)増加する見通しとなっております。スマートフォン・タブレット向け基板は、売上全体に占める割合は徐々に低下しますが、マザーボード向けのビルドアップ基板に加え、フレキシブル基板の販売が増加する見通しとなっております。半導体パッケージ基板は、ベトナム第3工場および石巻第2工場を増設し試作生産を開始いたしました。中期経営計画としては、半導体需要の回復に時間がかかることを想定し、第2期投資である天童工場での増産計画を延期いたしました。これにより、販売計画は250億円に修正し、当中期経営計画での投資総額を900億円に修正いたしました。SSD/IoT基板、AI家電/アミューズメント/産業機器/他基板は計画並みを想定しております。EMS事業は、メイコーエンベデッドプロダクツ株式会社の売上が本格的に寄与することから最終年度では当初計画比100億円増加する見通しです。なお、対ドル為替レートは、当初計画では122円としていましたが、修正計画では130円としております。

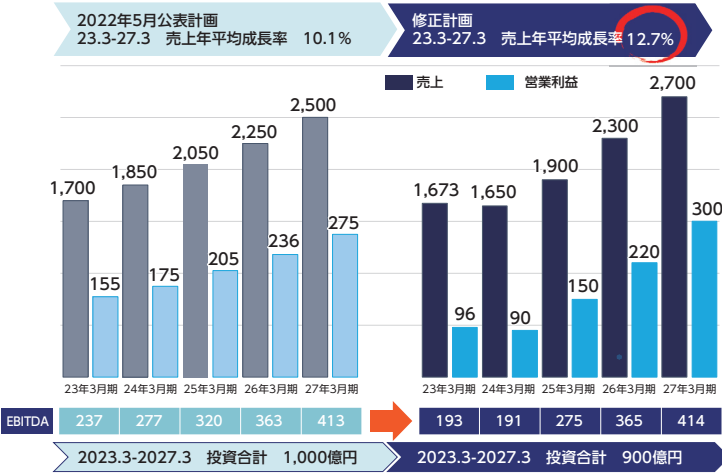
修正後の中期経営計画は、本格的な需要の回復を2025年3月期と想定し、それ以降工場稼働率が徐々に回復すると想定しており、2027年3月期は当初の計画通り営業利益率11%の達成に向け投資案件の早期収益化、生産性改善による収益改善を進めてまいります。

株主還元について

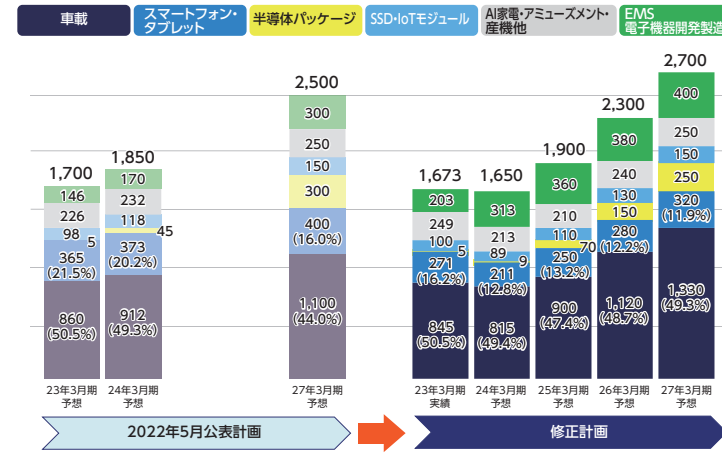
当社は、株主の皆様に対する利益向上を経営の重点課題の一つとしております。当面は、企業規模拡大のための投資を優先し、売上と利益額の拡大に注力いたします。配当性向の目安を15%とし、利益額の拡大とともに配当額の増加を図ってまいります。

株主の皆様をはじめ、すべてのステークホルダーのご支援、ご期待にお応えするべく、改善のための各々の施策に全力で取り組み、業績と企業価値の向上に努めてまいります。今後とも一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

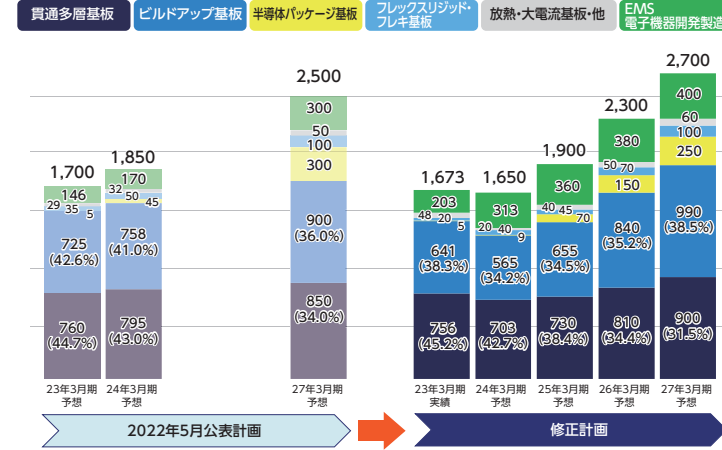
中期経営計画 概要



中期経営計画 商品別売上高推移



中期経営計画 仕様別売上高推移



配当金

2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期(予想)
45円	55円	50円
第2四半期末 20円 期末 25円	第2四半期末 27円 期末 28円	第2四半期末 25円 期末 25円



社外監査役
宮内 弘

COVID-19の感染が広まり始め、企業を取り巻く環境が一変する中、2020年6月の株主総会で選任いただき、社外監査役として職務遂行させていただいております。昨年度はオンラインによる国内外の関係会社・各部門への監査と意見交換・助言に注力してまいりました。

温暖化、ウクライナ侵攻、米中問題、円安、低金利政策、インフレ、材料・輸送費高騰、半導体IC不足、自動車のEV化加速、スマホ業界の低迷など、自然環境の変動が進む中で政治・経済・社会が激動し、企業経営・事業活動には極めて厳しい状況がまだまだ続いております。このような中にあっても、進めてきた先行投資をタイムリーに成果に結びつけ、現状維持に甘んじずに「強み」を醸成することが重要となります。

ステークホルダーの皆様のご期待に沿えるよう、執行側とともに持続性のある適切な内部統制の実現を目指し、さらなる事業性の向上と企業価値の向上に努めてまいります。引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

コーポレートデータ (2023年3月31日現在)

会社概要

商号	株式会社メイコー
設立	1975年11月25日
資本金	12,888百万円
従業員数	11,889名(連結) (国内1,264名・海外10,625名)
主な事業内容	電子回路基板等の設計、製造および販売 ならびにこれらの付随業務に関する電子 関連事業

役員

代表取締役社長執行役員	名屋 佑一郎
取締役専務執行役員	篠崎 政邦
取締役専務執行役員	和田 純也
取締役常務執行役員	坂手 敦人
取締役常務執行役員	桔 梗 芳
取締役執行役員	名屋 茂浩
取締役執行役員	申 允 生
取締役執行役員	土屋 奈洋
取締役執行役員	西山 介隆
取締役執行役員	原 田 俊
取締役執行役員	小松 田 孝
取締役執行役員	宮内 弘
取締役執行役員	江 尻 琴

関連会社

株式会社山形メイコー	電子関連事業
株式会社メイコーテック	電子関連事業
株式会社メイコーテクノ	電子関連事業
メイコーエンベッデッドプロダクツ株式会社	電子関連事業
メイコーエンベッデッドテクノロジー株式会社	電子関連事業
名幸電子香港有限公司	電子関連事業
名幸電子(広州南沙)有限公司	電子関連事業
名幸電子(武漢)有限公司	電子関連事業
広州市斯皮德貿易有限公司	電子関連事業
Meiko Electronics Vietnam Co., Ltd.	電子関連事業
Meiko Electronics Thang Long Co., Ltd.	電子関連事業
Meiko Towada Vietnam Co., Ltd.	電子関連事業
Meiko Electronics America, Inc.	電子関連事業

株式情報

発行可能株式総数	普通株式	70,000,000株
	第一回社債型種類株式	100株
発行済株式の総数	普通株式	25,780,069株
	(自己株式 1,023,251株を除く)	
	第一回社債型種類株式	70株
株主数	普通株式	5,724名
	第一回社債型種類株式	1名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
名屋 佑一郎	4,703	18.25
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,804	14.76
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,229	8.65
THE HONGKONG AND SHANGHAI BANKING CORPORATION LTD - HONG KONG PRIVATE BANKING DIVISION - CLIENT ACCOUNT	1,216	4.72
CLEARSTREAM BANKING S.A.	1,012	3.93
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC /FIW/LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS	820	3.18
名幸興産株式会社	608	2.36
有限会社ユーホー	521	2.02
名屋 精一	405	1.57
株式会社三井住友銀行	377	1.46

※当社は、自己株式1,023,251株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。
また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

(第一回社債型種類株式)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社日本政策投資銀行	70	100.00

所有者別株式分布状況(普通株式)



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎ 0120-782-031
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場
公告の方法	電子公告により当社ウェブサイトに掲載 https://www.meiko-elec.com/ir/pa.shtml ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載

株式に関するお問合せ

- 住所変更、配当金受取り方法の変更等のお手続きは、お取引の証券会社にお問合せください。
- 証券会社の口座をご利用でない株主様、未払配当金のお手続きは、上記三井住友信託銀行証券代行部にお問合せください。